

## 竹原真理子さん (竹原)



農業が好き。馬が好き。女性では県内初の馬の家畜人工授精師、竹原真理子さんをご紹介します。

意欲的に農業に取り組む阿蘇市認定農業者の会383人に、女性の輝く姿があります。昨年、認定農業者の会に女性部(田中弘子部長ほか24人)が発足。皆さん男性同様、活発に農業に取り組む一方、女性ならではの感性で情報交換を行いながら農業振興を目指しています。

その一員の、竹原真理子さんは、ご主人はお勤めで、ご自分が実家の農業を継ぎ、20年ほど前から畜産と水稲(3.8ha)、飼料作物栽培(3ha)などを行っています。大型農業機械の免許を取得し、田んぼで代掻き、田植え、わらロール作りを一人で行ないます。

現在、竹原さんが一番力を入れているのが、馬の繁殖です。近年阿蘇市内で、馬を飼う農家が激減。牛に比べ、公的支援や税優遇が少なく、また発情期間が短いため、妊娠に失敗したら丸一年棒に振るリスクから、馬を飼う農家が減ったと考えられています。しかし、竹原さんは「阿蘇の方々にもっと馬を飼って欲しい」と願われています。竹原さんが原野に放牧に連れて行くと、いつも観光客の車が10台くらいずらっと停まります。馬との出会いを喜び、写真を撮るそうで、「阿蘇に馬を見に来ました」「最近馬が少なくて寂しいです」などの声を山に登る度に耳にし、「観光面のためにも馬の放牧は必要」と痛切に語られます。

馬のことなら何でもトライしたかった。

牛馬の子を産ませてセリ市に出す(繁殖)経営のため、最も気を使うのが、授精と出産。牛の場合は、20日周期で発情がきて授精の機会がありますが、馬の発情は春の約1〜4ヶ月だけ。竹原さんは畜産を始めた当初、わからない事が多く、獣医さんの説明にもついて行けず、「これじゃいけない」と、自ら資格を取ることを決意。そこから勉強を始め研修を受け、見事、女性では全国的にもめずらしい馬の家畜授精師の資格を平成18年に取得されました。

人工授精のメリットは、品種改良やコスト削減、手軽さなどがあります。馬の子宮まで女の手の長さじゃ届かないという不安も解消。超音波を使つての直診も板についてきました。牛馬の出産の時もご主人の協力を得ながら一人で行ないます。パワーの持ち主。

女性と農業について竹原さんは「やる気の問題だと思います。確かに昔から、『奥さんが倒れても田は植わるばってん、親方が倒ると田は植わらん』といわ



れますが、今は機械もあるし、充分女性の力でやれると思います。牛馬の出産の時は引き出す力が必要ですが、私も失敗を繰り返しながらやっています。けれど農業が好きだから苦にならない。好きな仕事をやれて幸せと思っています」と明るい笑顔。取材中連絡があり「牛がいなくなつたので谷に落ちていないか探して来ます!」とトラックに飛び乗り山に向う姿に阿蘇の女性の強さを感じます。

草原に立ち、竹原さんの「トゥルル」という口笛に牛馬が歩いてくる光景。この光景がまた誰かに引き継がれ、いつまでも放牧が残ってほしいものです。さて、11月5日は年に一度の子馬のセリ市。竹原さんの取り上げた子馬3頭に高い値がつくことを願うばかりです。